

授業コード	520096	オムニバス	
科目名	ヒューマンケアと生活空間 (Humancare and Living Space)		
配当学年	1	単位数	1
年度学期	2018年度 秋学期	曜日時限	木曜1限
対象学科	建築	コース	
科目区分	専門科目	必選の別	選択科目
担当者	勝木 祐仁		
教室			
授業の目的	ヒューマンケアの概念が登場した社会的背景と制度的背景について基礎的な知識を得る。生・老・病・死・障がいなどのテーマに基づく具体的な事例から、ケアを必要とする人やその暮らしに関わる様々な人の思い、その人たちと向き合う自分について考える。また、ヒューマンケアにおける生活空間の位置づけと役割を考える。		
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒューマンケアの概念と、その登場した社会的背景・制度的背景について概要を説明できる。</li> <li>・ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちの置かれた立場や思いを具体例に基づき表現することができる。</li> <li>・生の意義、老・病・死・障がいとともに自分らしく暮らすことの意義について自分の考えを述べることができる。</li> <li>・コミュニケーションの様々な形と、ケアし/される関係について自分の考えを述べるができる。</li> <li>・ヒューマンケアと生活空間の関わりについて説明できる。</li> </ul>		
	授業計画	授業時間外課題（予習および復習を含む）	
第1回	ヒューマンケアとは	「ヒューマンケア」とは何か、現時点での自分の考えを整理し、人に説明できるようにしておく。	
第2回	生をみつめる	生の意義や出生に関する社会的・文化的な課題について、自分の考えを整理し、表現できるようにしておく。	
第3回	老いをみつめる	老いをめぐり、ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちのおかれた立場や思いについて、自分の考えをまとめておく。	
第4回	病と向き合う	病をめぐり、ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちのおかれた立場や思いについて、自分の考えをまとめておく。	
第5回	緩和ケアを通じて「生」の意味を知る	緩和ケアをめぐり、その当事者やその暮らしに関わる人たちのおかれた立場や思いについて、自分の考えをまとめておく。	
第6回	コミュニケーションについて考える	コミュニケーションの多様なあり方について、自分の考えをまとめておく。	
第7回	チームについて考える	チームの多様なあり方やチーム形成について、自分の考えをまとめておく。	
第8回	ケアを必要とする人の思いを知る（1）：生・老・病・死	生・老・病・死をめぐり、ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちのおかれた立場や思いについて、自分の考えをまとめておく。	
第9回	ケアを必要とする人の思いを知る（2）：障がい	障がいをめぐり、ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちのおかれた立場や思いについて、自分の考えをまとめておく。	
第10回	ヒューマンケアと生活空間（1）：住まい	ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちにとっての住まいの意義や課題について自分の考えをまとめておく。	
第11回	ヒューマンケアと生活空間（2）：施設	ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちにとっての施設の意義や課題について自分の考えをまとめておく。	
第12回	ヒューマンケアと生活空間（3）：まち	ケアを必要とする人やその暮らしに関わる人たちにとってのまちの意義や課題について自分の考えをまとめておく。	
第13回	リフレクション（グループディスカッション）	この授業を通じて自身が学んだこと、他の学生が学んだことをふり返り、自分の考えをまとめ直すしておく。	

第14回	まとめ	この授業での一連の学びを総括し、これからの学びと行動にどのように活かせるか、自分の展望をまとめておく。
評価方法と基準	各回のレポート（70%）、最終レポート（30%）	
テキスト		
参考図書	埼玉県立大学『IPWを学ぶ—利用者中心の保健医療福祉連携』中央法規出版（2009）【ISBN：978-4805848685】	
科目の位置づけ （学習・教育目標との対応）	この科目で学んだ「ヒューマンケア」を、「ケア空間体験実習」（1年秋・集中）では人の暮らしの現場で体験的に理解する。その2つの科目を通じて、「協働デザインの手法」（2年秋）、「生活空間の設計Ⅰ」（3年春）、「専門職連携実習」（3年春・集中）で連携と協働を学ぶ上での基礎的な態度と認識を養う。	
履修登録前の準備		